

<研究名称>

リハビリテーション地域包括支援事業でタブレットオーディオメータを導入した効果についての報告—第2報—（仮）

<実施責任者及び実施担当者>

実施責任者 所 属 リハビリテーション科

職 名 技師長

氏 名 木村 和久

実施担当者 所 属 リハビリテーション科

職 名 言語聴覚士

氏 名 中澤 肇

<研究期間>

2020年12月～2022年12月の2年間

<診療・研究の目的>

介護予防策の一環として、地域包括支援事業が開始となり、リハビリスタッフが地域高齢者に対し、実技指導や講話を実施している。STは主に嚥下・聴覚に関して支援しているが、その支援内容は、地域や担当スタッフにより多様化されている。嚥下は、機能維持や改善に直結する実技指導を実践できるが、聴覚は講話に留まっている。タブレットオーディオメータを用いた気導純音聴力検査（以下：聴検）を導入し、地域高齢者の聴力の現状や聴検導入の効果を検討し、「リハビリテーション地域包括支援事業でタブレットオーディオメータを導入した効果についての報告」として日本言語聴覚士会の学会誌（言語聴覚研究）に投稿し、掲載が決定している。今後も地域支援事業におけるタブレットオーディオメータを用いた難聴のスクリーニングの継続は意義深い。言葉の聞こえは語音聴力検査の必要性があり、より日常生活での聞こえに則した評価には、気導純音聴力検査のみでは限界がある。そこで、第2報として、気導聴力検査に加え、語音聴力検査を導入し、地域高齢者の聞こえに関する調査を行う。

<実施内容（方法）・危険性（副作用）等>

（1）実施内容（方法）

対象は、地域包括支援事業の要請があり、気導純音聴力検査・語音聴力検査・アンケートに同意頂ける方。1高齢者サークルにつき、5名で募る。期間は、2020年12月～2022年12月の2年間（4～5グループ計20名程度）。方法は、地域包括支援事業で、難聴やそれによる2次的・3次的障害、聴力検査と補聴、リハビリテーションの重要性に関して講話を実施し、その後、気導純音聴力検査、語音聴力検査、アンケートを実施する。聴力検査場所で

の暗騒音レベルの計測する。分析は、重症度分類・オーディオグラム重ね書き、語音聴力検査の正答率・誤答し易い音の調査、重症度と語音聴力検査正答率の相関、各周波数毎の音圧レベルと語音聴力検査の相関、重症度・語音聴力検査の結果と聴力低下の自覚（アンケート結果）の関係、について分析する。

（2）危険性・副作用等

特になし。

〈倫理上問題になると考えられる事項〉

データ提示により個人が特定されないよう、氏名、年齢（年代は記載）、などの個人情報は一切記載しない。

〈問い合わせ先〉

当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ

〒070-8530

旭川市曙1条1丁目1番1号

旭川赤十字病院      リハビリテーション科   中澤 肇

TEL 0166-22-8111

FAX 0166-24-4648